

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

| 学部 ・学科等 の名称 | 専任教員数 | | | | | | | | 非常 勤教 員 | 専任教員 一人あた りの在籍 学生数 | 備考 |
|--------------------|-------|---------|----|----|-----|---------|---|----|---------------|-----------------------------|----|
| | 教授 | 准教 授 | 講師 | 助教 | 計 | 基準 数 | うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数 | 助手 | | | |
| リハ学部 理学療法 学科 | 6人 | 4人 | 1人 | 3人 | 14人 | 人 | 13人 | 0人 | 61人 | 25.8人 | |
| 計 | 6人 | 4人 | 1人 | 3人 | 14人 | 人 | 13人 | 0人 | 61人 | 25.8人 | |

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | 理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。 | 3 |
| | 理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。 | 2 |
| | 理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。 | 1 |

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | 全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。 | 4 |
| | 9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。 | 3 |
| | 8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。 | 2 |
| | 上記以外である。 | 1 |

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|--|----|
| | 専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。 | 3 |
| | 専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。 | 2 |
| ○ | 専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。 | 1 |

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

| 分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門) | 指定規則 教育内容 | 相当授業 科目名 | 担当 コマ 数 | 担当教員 | |
|----------------------------|--------------------------------|-----------------|---------------|---|-------------------|
| | | | | 氏名 | 職名 (専任・ 兼任) |
| 基礎分野 | 科学的思考の 基盤 人間と生活 社会の理解 | キャリア教育 | 15 | 橋元・高橋・石橋・ 佐野・湊 | 専任 |
| | | スタートアップ教育Ⅰ | 15 | 中藤・高橋・橋元・石橋・ 廣滋・奥田・鍵村・井元・ 吉田・神崎・時任・河上・ 鈴木・長野 | 専任 |
| | | スタートアップ教育Ⅱ | 15 | 鈴木・高橋・橋元・石橋・ 廣滋・奥田・鍵村・井元・ 吉田・中藤・神崎・時任・ 河上・長野 | 専任 |
| | | 健康と栄養 | 15 | 渡辺 響子 | 専任 |
| | | 北九州市のノーマライゼーション | 15 | 宮永 敬市 | 兼任 |
| | | 食と農園 | 15 | 佐野・室井由 | 専任 |
| | | 医療人のための教育学Ⅰ | 15 | 脇田 哲郎 | 専任 |
| | | 社会福祉と地域ケア | 15 | 竹並 正宏 | 専任 |
| | | 医学倫理学 | 15 | 石橋 敏郎 | 専任 |
| | | 基礎心理学 | 15 | 久保 昂大 | 専任 |
| | | 医療人のための教育学Ⅱ | 15 | 脇田 他 | 専任 |
| | | 医療人のための哲学 | 15 | 吉田 正史 | 専任 |
| | | 医療人のための法学 | 15 | 中野 次吉 | 専任 |
| | | 基礎生物学 | 15 | 鍵村 昌範 | 専任 |
| | | 基礎物理学 | 15 | 田尾 悟 | 兼任 |
| | | 基礎化学 | 15 | 坂尻 徹也 | 専任 |
| | | 医療人のための科学 | 15 | 村田・平澤・長野 | 専任 |
| | | 情報処理演習Ⅰ | 15 | 久保 昂大 | 専任 |
| | | 情報処理演習Ⅱ | 15 | 久保 昂大 | 専任 |
| | | 健康スポーツ科学 | 15 | 八板 昭仁 | 兼任 |
| | | 実用英語の基礎Ⅰ | 15 | 梅崎 義雄 | 専任 |
| | | 英会話Ⅰ | 15 | 神崎 淳子 | 兼任 |
| | | 実用英語の基礎Ⅱ | 15 | 梅崎 義雄 | 専任 |
| | | 英会話Ⅱ | 15 | 神崎 淳子 | 兼任 |
| フランス語の基礎 | 15 | コモン・ティエリ | 兼任 | | |
| 中国語の基礎 | 15 | 鳥丸 知子 | 兼任 | | |

| | | | | | |
|--------|---------------------|----------------|---------|--|------|
| | | 韓国語の基礎 | 15 | 元 慶臣 | 兼任 |
| 専門基礎分野 | 人体の構造と機能及び心身の発達 | 解剖学Ⅰ | 15 | 片岡 真司 | 兼任 |
| | | 解剖学Ⅱ | 15 | 片岡 真司 | 兼任 |
| | | 生理学Ⅰ | 15 | 鍵村 昌範 | 専任 |
| | | 生理学Ⅱ | 15 | 鍵村 昌範 | 専任 |
| | | 解剖生理学総合実習 | 15 | 片岡 真司 | 兼任 |
| | | 解剖生理学総合実習 | 9 | 鍵村 昌範 | 専任 |
| | | 運動学Ⅰ | 15 | 石橋 敏郎 | 専任 |
| | | 運動学Ⅱ | 15 | 石橋 敏郎 | 専任 |
| | | 人間発達学 | 15 | 奥田 憲一 | 専任 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 病理学 | 15 | 引地 尚子 | 兼任 |
| | | 臨床心理学 | 15 | 山田 幸代 | 兼任 |
| | | 小児科学 | 15 | 小川・多久・河原 | 兼任 |
| | | 内科学 | 15 | 宮崎・三角 | 兼任 |
| | | 整形外科学 | 15 | 河野 他 | 兼任 |
| | | 神経内科学 | 15 | 椎 裕章 | 兼任 |
| | | 精神医学Ⅰ | 15 | 金澤 耕介 | 兼任 |
| | | 臨床医学とリハビリテーション | 15 | 中島 他 | 兼任 |
| | | リハビリテーション栄養学 | 15 | 近藤 順子 | 専任 |
| | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 | リハビリテーション概論 | 9 | 橋元・澁 | 専任 |
| | | リハビリテーション概論 | 6 | 浜村・西野・蜂須賀 | 兼任 |
| 地域保健学 | | 15 | 沖 勉 | 専任 | |
| 臨床統計 | | 15 | 久保 昂大 | 専任 | |
| 専門分野 | 基礎理学療法学 | 理学療法学概論 | 15 | 高橋 精一郎 | 専任 |
| | | 理学療法ゼミナールⅠ | 30 | 中藤・高橋・橋元・石橋・廣滋・奥田・鍵村・井元・吉田・神崎・河上・時任・鈴木 | 専任 |
| | | 理学療法ゼミナールⅡ | 15 | 時任・高橋・橋元・石橋・廣滋・奥田・鍵村・井元・吉田・中藤・神崎・河上・鈴木 | 専任 |
| | | 理学療法ゼミナールⅢ | 15 | 吉田・高橋・橋元・石橋・廣滋・奥田・鍵村・井元・中藤・神崎・時任・河上・鈴木 | 専任 |
| | | 理学療法基礎演習 | 15 | 石橋・高橋・鍵村 | 専任 |
| | | 理学療法総合研究 | 30 | 廣滋・高橋・橋元・石橋・奥田・鍵村・井元・吉田・中藤・神崎・時任・河上・鈴木 | 専任 |
| | | 理学療法研究法演習 | 15 | 井元・高橋・廣滋・奥田・神崎・河上 | 専任 |
| | | 理学療法管理学 | 理学療法管理学 | 15 | 橋元 隆 |
| | 理学療法評価学 | 理学療法評価学Ⅰ | 15 | 廣滋 恵一 | 専任 |
| | | 理学療法評価学Ⅱ | 15 | 吉田 遊子 | 専任 |
| | | 理学療法評価学Ⅲ | 15 | 吉田 遊子 | 専任 |
| | | 理学療法評価学統合演習Ⅰ | 15 | 廣滋・井元・神崎 | 専任 |
| | | 理学療法評価学統合演習Ⅱ | 15 | 吉田・廣滋・中藤・神崎・時任・鈴木 | 専任 |
| | | 動作分析演習Ⅰ | 15 | 中藤・橋元 | 専任 |

| | | | | |
|-------------|-------------|----------|--|----|
| | 動作分析演習Ⅱ | 15 | 河上 淳一 | 専任 |
| 理学療法 治療学 | 運動療法学概論 | 15 | 高橋 精一郎 | 専任 |
| | 運動療法学演習 | 15 | 時任 真幸 | 専任 |
| | 物理療法Ⅰ | 15 | 中藤 佳絵 | 専任 |
| | 物理療法Ⅱ | 15 | 中藤 佳絵 | 専任 |
| | 義肢装具学 | 15 | 大峯 三郎 | 兼任 |
| | 高次脳機能理学療法 | 15 | 渕・鈴木 | 専任 |
| | 中枢神経疾患理学療法Ⅰ | 15 | 鈴木 雄太 | 専任 |
| | 骨・関節疾患理学療法Ⅰ | 15 | 河上 淳一 | 専任 |
| | 神経・筋疾患理学療法 | 15 | 鈴木 雄太 | 専任 |
| | 内部疾患理学療法Ⅰ | 15 | 井元 淳 | 専任 |
| | 小児理学療法Ⅰ | 15 | 奥田 憲一 | 専任 |
| | 義肢装具学演習 | 15 | 大峯 三郎 | 兼任 |
| | 中枢神経疾患理学療法Ⅱ | 15 | 橋元・鈴木 | 専任 |
| | 骨・関節疾患理学療法Ⅱ | 15 | 河上・時任 | 専任 |
| | 内部疾患理学療法Ⅱ | 15 | 神崎 良子 | 専任 |
| | 小児理学療法Ⅱ | 15 | 近藤 他 | 兼任 |
| | 日常生活活動演習 | 15 | 中藤・橋元 | 専任 |
| | 理学療法総合演習Ⅰ | 15 | 石橋・高橋・橋元・廣滋・ 奥田・鍵村・井元・吉田・ 中藤・神崎・時任・河上・ 鈴木 | 専任 |
| | 理学療法総合演習Ⅱ | 15 | 石橋・高橋・橋元・廣滋・ 奥田・鍵村・井元・吉田・ 中藤・神崎・時任・河上・ 鈴木 | 専任 |
| | 高齢期理学療法学 | 15 | 大峯 三郎 | 兼任 |
| | スポーツ系理学療法 | 15 | 時任 真幸 | 専任 |
| | バラスポーツ | 15 | 時任 真幸 | 専任 |
| | 先端医療と理学療法 | 15 | 廣滋・高橋・橋元・石橋・ 奥田・鍵村・井元・吉田・ 中藤・神崎・時任・河上・ 鈴木 | 専任 |
| 性差医療と理学療法 | 15 | 吉田・中藤・神崎 | 専任 | |
| 予防理学療法 | 15 | 廣滋 恵一 | 専任 | |
| 地域理学 療法学 | 生活環境論 | 15 | 吉田 遊子 | 専任 |
| | 地域理学療法学 | 15 | 廣滋・奥田・井元・ 吉田・中藤 | 専任 |
| 臨床実習 | 臨床実習Ⅰ | 45 | 神崎・廣滋・奥田・ 井元・吉田・中藤・ 時任・河上・鈴木 | 専任 |
| | 臨床実習Ⅱ | 180 | 吉田・高橋・橋元・石橋・ 廣滋・奥田・井元・中藤・ 神崎・時任・河上・鈴木 | 専任 |
| | 臨床実習Ⅲ | 315 | 吉田・高橋・橋元・石橋・ 廣滋・奥田・井元・中藤・ 神崎・時任・河上・鈴木 | 専任 |
| | 臨床実習Ⅳ | 315 | 吉田・高橋・橋元・石橋・ 廣滋・奥田・井元・中藤・ 神崎・時任・河上・鈴木 | 専任 |
| | 臨床実習Ⅴ | 45 | 神崎・石橋・廣滋・奥田・ 井元・吉田・中藤・ 時任・河上・鈴木 | 専任 |

※臨床実習については、実習時間数を表示しています。

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | 養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。 | 3 |
| | 養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。 | 2 |
| | 養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。 | 1 |

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|--|----|
| ○ | シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。 | 4 |
| | シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。 | 3 |
| | シラバスの記載が十分ではない。 | 2 |
| | シラバスが作成されていない。 | 1 |

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|--|----|
| | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。 | 4 |
| ○ | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。 | 3 |
| | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。 | 2 |
| | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。 | 1 |

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---------------------------|----|
| ○ | 講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。 | 4 |
| | 講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。 | 3 |
| | 講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。 | 2 |
| | 講義と関連の実習が連動して実施されていない。 | 1 |

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

| 臨床実習の見学又は実践する範囲 | 開講時期 | 関連講義名 | 開講時期 |
|-----------------|------|-------|------|
| 見学実習 | 3年前期 | 臨床実習Ⅰ | 3年前期 |
| 評価実習 | 3年後期 | 臨床実習Ⅱ | 3年後期 |
| 総合臨床実習 | 3年後期 | 臨床実習Ⅲ | 3年後期 |
| 総合臨床実習 | 4年前期 | 臨床実習Ⅳ | 4年前期 |
| 通所・訪問リハの見学実習 | 4年前期 | 臨床実習Ⅴ | 4年前期 |

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| | 養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。 | 3 |
| | 養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。 | 2 |
| ○ | 養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。 | 1 |

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|------------------------------|----|
| ○ | 適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。 | 4 |
| | 適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。 | 3 |
| | 適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。 | 2 |
| | 適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。 | 1 |

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|--------------------------------------|----|
| ○ | 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。 | 3 |
| | 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。 | 2 |
| | 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。 | 1 |

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|-------------------------------|----|
| ○ | 自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。 | 3 |
| | 自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。 | 2 |
| | 自己点検・評価の体制がない。 | 1 |

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

| | |
|--------------|--|
| 自己点検・評価組織名 | 自己点検・評価委員会（認証評価事務局） IR 推進本部 IR 推進室 |
| 委員名（委員長） | 委員長：室井廣一（学長） |
| 組織の開催頻度 | 17 回開催（令和 4 年度実績） |
| 組織の取り組み内容 | 各部門の目標について |
| | 学生支援満足度調査の実施と調査結果について |
| | 教学監査ヒアリングの実施について |
| | 3 つのポリシーの検証見直しについて |
| 自己点検・評価結果の公表 | 各調査結果等は大学公式ホームページ上に公開（情報公開） |

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。 | 3 |
| | シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。 | 2 |
| | シラバス記載内容を改善する仕組みがない。 | 1 |

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

| | | |
|-------------|-----------|---|
| 該当する 仕組み | 名称 | FD委員会、学科長・学部長、教務課による複数点検 |
| | 委員構成等 | 上記の通り |
| | 改善の仕組みの実際 | 授業評価アンケート結果を参考に、次年度の授業構成をFD会議等で検討し、科目担当者が自己修正する。 作成したシラバスを、学科長、学部長、教務課が点検する。 |

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

学務連絡調整会議、教学監査ヒアリング、FD会議などで課題解決に取り組んでいる。授業評価や学生満足度評価を指標としている。

2023年5月1日付
南区キャンパス教務課